

2008年12月25日発行
第1巻 第5号
2009年1月号



ナショナル
ジオグラジャップ
日本版

NATIONAL GEOGRAJAP

パラミータ文明は
アトランティスだった

伝説の金属オリハルコン発見

ナメナメクージ人工孵化
禁断の原画一般公開
TOKYOGUNS 個展
太平洋のポンペイ



LES
QUATRE
GATS
NEGRA

RENTAL GALLERY OPEN !

GUILD-UNIT/ART SPACE [GAS]



JAP

GAS

tel.0422-46-1436
<http://www.jap-inc.com/>

**1-15-5,
Kichijoji-Minamicho,
Musashino-City,
Tokyo,Jap**

ナメナメクージの人工孵化に成功



2008年の夏に長野県大町市美麻で発見された新種のナメクジ、ナメナメクージ。その生態を研究していた吉祥寺大学の一井長馬准教授が、発見からわずか半年で人工孵化に成功した。当初はほとんど動くことがなく、その生態の解明には時間がかかると思われていたナメナメクージだが、予想以上に早く生態が判明し、人工孵化への道につながった。

「発見されたときに鹿革に集まってい

たので、鹿革を餌に与えていましたが、普通のナメクジと同じようにキャベツを食べます。鹿革をなめていたのは、自分の身体を磨いて、その輝きを保つためでした。人工孵化に成功したと言っても、いつの間にか数が増えていたと表現したほうが正しいでしょう。まだまだ謎の多い生き物です」

現在、一井准教授は発見地の美麻で野生環境のナメナメクージを研究することに没頭している。

読者の皆様へ

©JAP Inc.

●「ナショナル・ジオグラフィック」の内容はすべて、架空のものです。実在する団体、個人とは一切関係ありません。

●「ナショナル・ジオグラフィック」の内容の全部、または一部を無断で他のメディアに転載することを禁じます。著作権はすべてJAP工房に帰属します。

●参考文献：「日本文明の謎を解く」(清流出版刊)、「文字の起源と歴史」(創元社刊)、「消えた古代文明」(講談社刊)、「古代遺跡ミステリー」(教育社刊)、「超古代オーバー・ファイル」(学習研究社刊)、「世界の宗教101の謎」(河出書房新社刊)、「図解 曼荼羅大全」(東洋書林)

●Photo：Jap-Inc, Studio Zimp, Yukio Isogai, ©pierre - Fotolia.com

Rock Star

CAFE

KICHIJOSHI

上質のアートと、くつろぎのひとときを。

Rock Star Cafe 吉祥寺は、GUILD-UNIT ART SPACE [GAS] に併設のカフェテリアです。
お気軽にお立ち寄りください。



BARBARA WAFFLE(650yen)



BARBARA HIP(650yen)



CREMA CATALANA(450yen)

1-15-5,
Kichijoji-Minamicho,
Musashino-City,
Tokyo,Jap

禁断の原画が ついに一般公開

妄想芸術家 YOU-KO のライフワーク「BARBARA」は謎が多く、その世界観の解明に多くの研究者が挑んできた。しかし 2008 年末に突如 YOU-KO 自らの主催によって「BARBARA 展」が開催され、その全容が明らかになった。だがこれまで発表されたものがエピソードの 1 つでしかないことが判明し、謎はさらに深まることに。研究者の新たな悩みが増えただけだった。



世界的イラストレーターが 吉祥寺で個展

ナイキの CM キャラクターをはじめ、TV、雑誌、音楽業界で活躍している世界的イラストレーター、TOKYO GUNS の岩瀬匠が個展を開催。ジャンルを限定せずに活動する岩瀬らしく、溢れんばかりの作品がギャラリーを埋め尽くした。独自のアメリカンテイストと、日本文化の曖昧なリミックス感にブラックユーモアを加えた作風は、江戸時代から続く日本文化を持ちながら若者の街として発展する吉祥寺に新しい刺激を与えたようだ。

誰も知らない太平洋のポンペイ

1 世紀にヴェスヴィオ山の大噴火によって地中に埋まってしまったポンペイ。その世界遺産と同じように火山灰に埋まってしまった村が太平洋の島にある。遺跡保護のため一切の情報がまだ明らかにされていないが、石膏で復元した遺体にはこのような姿のものが存在しているのも情報公開をためらわせている理由らしい。



パラミータ文明は

エーゲ海に浮かぶ美しい島、サントリーニ島。
一夜にして海の底に沈んだという伝説の大陸
アトランティスの言い伝えが残るこの島で
パラミータ文明の痕跡が見つかった。
神話がついに現実になるかもしれない。

地中海の東、エーゲ海に浮かぶギリシャのサントリーニ島。現在では人気の観光地として栄えている。青いドームはギリシャ正教の聖堂の屋根だ。

アトランティスだった

アトランティスとは紀元前4世紀のギリシャの哲学者プラトンが、彼の2つの著書『ティマイオス』『クリティアス』で書き記した伝説の大陸、およびそこで繁栄した超古代文明のことだ。その書物によれば、アトランティスは今から1万2000年ほど前に存在したが、ゼウスの怒りに触れて大地震と大洪水が襲い、一昼夜にして海中に沈んでしまった。

アトランティスがどこにあったのか？ 大西洋説、地中海説、南極説、インド説など諸説あるが、最も有力なのは地中海説のサントリーニ島だ。サントリーニ島は阿蘇山のような巨大なカルデラの一部が島になったもので、火山噴火で陸地のほとんどは海底に沈んでしまった。

そのサントリーニ島からパラミータ文明の遺物が発見された意味は非常に大きい。アトランティス文明が栄えたという紀元前1万2000年と、アメリカのネバダ砂漠で見つかったパラミータ文明の遺物の年代が一致するからだ。

パラミータ文明の研究によって、神話や寓話の世界のものと信じられてきたアトランティスが、いま現実のものになろうとしている。





サントリーニ島で発見された腕のミイラ。銀製の装飾品はこれまで見つかったパラミータ文明の遺物と同じ特徴を持っている。赤い金属部分は阿蘇で見つかった阿塑像と同じ金属だと判明した。

サントリーニ島に住む島民
の家に代々伝わってきた。
しかし誰のミイラなのか、
なぜこのように装飾されて
いるのか、はっきりしたこ
とはわかっていない。





サントリーニ島のミイラ

北アメリカ大陸で発見された超古代文明の遺物と類似したものが世界各地で発見されてきた。中央アメリカ、南アメリカ、東南アジア、日本。そしてついにヨーロッパからも発見の報告があった。

“発見”という言葉は適切ではないかもしれない。この遺物は先祖代々受け継がれて大切に保管され、昔から来客者には幾度となく披露されてきたのだから。ただそれが歴史的、文化的に価値があるものだとして認識されていなかったに過ぎない。

サントリーニ島の島民が所有するミイラの腕はあまりにも衝撃的だ。これが誰の腕のミイラで、いつ頃のもののかは、受け継いできた持ち主でさえわかっていない。

「この腕が私の先祖のものなのか、そうではないのかさえ分かってはいません。ただそうした記録が途絶えるほど昔から受け継いでいるのです」と持ち主は語る。

記録が残っているのは300年だが、それよりも遙か昔から受け継いでいるらしい。この腕のミイラの存在を報告したのは、アトランティス伝説の研究者ヴァンゲリス・エウエノル (Vangelis Euenor) だ。

「アトランティス伝説を文化人類学的見地から、伝説発祥の経緯とその背景について研究するため、サントリーニ島には何度も訪れていましたが、こんなものが存在しているとは最近まで知りませんでした。アメリカのネバダで発見された遺物の記事を新聞で見た島民がこれを私のところにもってきてくれたのです」

腕のミイラは、これまで発表されているパラミータ文明の遺物と同じ意匠をもった装飾品で、腕を覆い隠すほどに飾られていた。エウエノルによれば腕のミイラはミノア文明が栄えた紀元前5000年頃のもので、アトランティ

スの文明の末期と一致するという。「装飾品の一部や台座に赤い金属が使われているのが興味深いですね。これをアトランティスに存在した幻の金属だという研究者も出てきました」

なぜ腕だけがこのようなミイラとなっていて、大切に受け継がれてきたのだろうか？ 腕のミイラはまるで装飾品を飾るために存在しているようにも思えるが、よく見るとミイラの爪が、指輪の爪と同じように細長くとがっている。古代中国では司祭が神聖な長い爪で神と会話をしたという言い伝えがある。この腕は力を持った司祭のものなのかも知れない。爪のある指輪はその力をさらに高めるため、あるいは誇示するためのものだろう。

「アトランティスの文明は、ギリシャ文明より先に栄えたミノア文明またはそれ以前に栄えていた文明が誇張されて伝えられた結果、別の文明として認識されたというのが私の見解です。ミノア文明の遺跡からこれまでこのような指輪の出土はありませんが、司祭が大きな権力を持っていたという記録があります」

エウエノルはアトランティス文明との関連性は否定するものの、アトランティス伝説発祥の背景に、まだ我々が知らない文明が関係している可能性を示唆した。



ミイラの爪。かつてはもっと長かったが、損傷によって短くなったという。



一見すると赤い石のように見える装飾も赤い金属であることが判明。台座に刻まれた円盤文字は、阿蘇泉神社の阿塑神像の円盤文字と一致する。



幻のオリハルコンは実在した

ヴァンゲリス・エウエノルによって報告されたサントリーニ島の腕のミイラは、パラミータ文明研究チームのウロボン・イマカワック (Urobon Imakawak) によって、詳細な調査が行われた。それによって腕のミイラの推定年代は紀元前 5500 年頃のものであることが判明、各地で発見されているパラミータ文明遺物の中でも古い部類に属することがわかった。

各地で見つかっているパラミータ文明遺物の特徴のすべてを備えている意匠には、あの円盤文字の文様も含まれる。未だに円盤文字については解明が進んではいないが、今後の進展に期待が持てるだろう。

そして日本の阿蘇泉神社に祀られている阿塑神像の発見で新たな謎とされていた赤い金属が、このサントリーニ島の装飾品に使われている赤い金属と同じものであることも判明した。銅の成分を含むこの合金は、古代ギリシャ・ローマの時代に「オリハルコン」「オレイハルコス」と呼ばれていたものの可能性が高い。詳細な成分は未だ分かっていないが、アトランティスの文明にも存在したというオリハルコンが使われていることで、アトランティス文明の存在も無視できなくなった。

興味深いのは、赤い金属＝オリハルコンの装飾品が発見されたのは、巨大なカルデラのサントリーニ島と阿蘇山だということ。カルデラにだけ、オリハルコンを作れる成分が存在するのか、それとも何か別の文明的理由があるのか……。現在、日本の吉祥寺にある研究機関 J.A.P.G.U. が、オリハルコンの分析を急いでいる。

阿塑神像に銀の珠が埋め込まれているという特徴もサントリーニ島の装飾品と同じだ。



NEXT ISSUE

次号「NATIONAL GEOGRAJAP」は、
春頃公開予定。
パラミータ文明を総力特集します

『NATIONAL GRAJAP』にご意見、ご感想をお寄せください。

grajap@live.jp